幕末・開国

名前

問1　1842年、江戸幕府はそれまでの強硬な対外政策を改め、外国船に燃料や水を与えて退散させる「薪水給与令」を出しました。この政策転換の直接的な背景となった、イギリスが清を破ったアジアでの出来事として正しいものはどれですか。（2021年 奈良県公立入試 類似）

1. アヘン戦争
2. ロシアの南下政策
3. 日清戦争
4. ペリー来航

問2　幕末の歴史を振り返る年表において、1854年の日米和親条約の締結から1867年の大政奉還が行われるまでの期間に位置づけられる出来事について述べます。坂本龍馬らの仲介によって、それまで対立していた薩摩藩と長州藩が倒幕のために結んだ軍事同盟を何といいますか。（2025年 岐阜県公立入試 類似）

1. 薩長同盟
2. 尊王攘夷
3. 公武合体
4. 五箇条の御誓文

問3　19世紀前半、イギリスは清から茶や絹を大量に輸入する一方で、清への銀の流出を食い止めるために、植民地であったインドからある品物を清へ密輸させる仕組みを整えました。この貿易構造において、インドから清へと送られた品物は次のうちどれですか。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 香辛料
2. 鉄鉱石
3. 綿織物
4. アヘン

問4　幕末の動乱期において、大きな政治運動となった「尊王攘夷（そんのうじょうい）」の思想について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2019年 沖縄県公立入試 類似）

1. 天皇の権威を利用して外国人と協力関係を築き、幕府の体制を立て直そうとする考え方。
2. 天皇を尊ぶ立場から、武力を用いてでも日本から外国人を排除しようとする考え方。
3. 幕府の権力を強めるために、外国の技術を積極的に導入して軍隊を近代化しようとする考え方。
4. 朝廷と幕府が協力して、外国との不平等条約を平和的な交渉によって解消しようとする考え方。

問5　1858年、江戸幕府の大老であった井伊直弼が、アメリカとの間で結んだ条約の内容と背景について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2026年 山口県公立入試 類似）

1. 朝廷の許しを得ないまま調印し、神奈川（横浜）や長崎などの5港を開港して自由貿易を認めたが、日本側に不利な不平等条約であった。
2. 開国による混乱を防ぐために井伊直弼が朝廷から正式な許可を得て調印し、国内の物価を安定させるための関税自主権を確立した。
3. ペリーの来航を受けて締結され、下田と箱館の2港を開港するとともに、アメリカ側に最恵国待遇を認めないことを条件とした。
4. 外国の商人が日本で罪を犯した際に日本の法律で裁く権利を確保したが、輸入品にかける関税の決定権を失う内容であった。

問6　幕末に日本へ来航したペリーの艦隊は、産業革命によって生み出された蒸気機関を搭載していました。この技術革新が航海に与えた歴史的な影響として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 奈良県公立入試 類似）

1. 風向きや海流の変化に左右されず、目的地へ向けた安定した航行が可能になった。
2. 石油を燃料とすることで、石炭を積むスペースを削減し、船体の小型化に成功した。
3. 電気モーターを利用することで、騒音を抑えて日本近海へ隠密に接近することが可能になった。
4. 帆をすべて廃止したことで、船体の重心が安定し、嵐の中でも沈没しない船が完成した。

問7　1854年に日本とアメリカの間で締結された日米和親条約において、下田と箱館（函館）の2港が開かれた主な背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 広島県公立入試 類似）

1. 当時のアメリカで普及し始めていた天然ガスの輸送拠点として、日本の港を中継地点にするため
2. 蒸気機関を搭載したアメリカ船が、航行を継続するために必要な石炭などの物資を補給する場所を求めたため。
3. 日本の特産品であった石油を安く買い叩き、アメリカ国内の工場の動力源として活用するため。
4. 日本各地で産出される質の高い薪を、アメリカの捕鯨船が暖を取るための燃料として独占するため。

問8　日米修好通商条約に含まれる「関税自主権の欠如」が、当時の日本に与えた影響やその仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 鳥取県公立入試 類似）

1. 自国の判断で輸入品に高い税率をかけることができず、安価な外国製品の流入から国内産業を守ることが難しくなった
2. 日本国内で流通する貨幣の発行権を外国に譲り渡すことになり、幕府が経済政策を主導できなくなった
3. 外国政府が日本の輸出額を自由に管理できるようになり、日本国内の物資が極端に不足する事態を招いた
4. 日本に入港するすべての外国船から徴収する税金をアメリカに支払う義務が生じ、国家財政が破綻した

問9　1842年、江戸幕府はそれまでの方針を転換し、接近した外国船に薪や水、食料を与えて帰すことを命じる「薪水給与令」を出しました。この方針転換の背景となった、当時の東アジア情勢を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 和歌山県公立入試 類似）

1. ペリー率いるアメリカの黒船が浦賀に来航したこと
2. フランス革命の影響によりヨーロッパ諸国との貿易が途絶えたこと
3. ロシアの使節ラクスマンが根室に来航し通商を求めたこと
4. アヘン戦争で清がイギリスに敗れたこと

問10　1867年に徳川慶喜が「大政奉還」を行った主な政治的背景と目的として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）

1. 全国の土地と人民を朝廷に直接返し、藩を廃止して県を置く中央集権化を一気に進めようとした。
2. 倒幕派に武力討伐の口実を与えないよう、自ら政権を返上して徳川家が新政府で主導権を握り続けようとした。
3. 欧米列強による開国要求を拒否するために、朝廷の権威を利用して鎖国体制を強化しようとした。
4. 朝廷から政権を預かり直すことで、江戸幕府を近代的な大統領制へと組織改革しようとした。

問11　19世紀半ば、水戸藩の徳川斉昭が「弘道館」を設立した当時の社会背景と、同時期に活動した人物の動向について述べた文として正しいものを選択肢から選びなさい。（2023年 茨城県公立入試 類似）

1. 外国船の来航など対外的な緊張が高まる中、人材育成が急務となり、吉田松陰らが尊王攘夷の思想を広めた。
2. 墾田永年私財法によって土地の私有が認められたため、有力な貴族が各地に私塾を開いた。
3. 元禄文化が栄え、近松門左衛門や井原西鶴といった人物が町人の生活を題材にした作品を残した。
4. 鉄砲の伝来により戦国大名の戦い方が変化し、織田信長が天下統一に向けて教育機関を整備した。

問12　1854年に締結された日米和親条約によって、下田と函館の2港が開港された主な目的はどのようなものでしたか。背景を含めた説明として最も適切なものを選びなさい。（2017年 長崎県公立入試 類似）

1. 蝦夷地（北海道）の開拓を促進し、アメリカへ輸出を行うため
2. 関税自主権を放棄し、外国との本格的な輸出入を開始するため
3. アメリカ船の遭難救助や、薪水・食料などの補給を行うため
4. キリスト教の布教を許可し、西洋の文化を広く取り入れるため

問13　日米修好通商条約の締結によって貿易が本格化した際、イギリスなどの欧米諸国から機械生産による安価な製品が大量に流入しました。これにより、日本の農村部などの生産地に大きな打撃を与えた品物の組み合わせとして正しいものを選択してください。（2025年 愛媛県公立入試 類似）

1. 生糸・茶
2. 綿糸・綿織物
3. 絹織物・陶磁器
4. 毛織物・鉄鋼

答え合わせ・解説

問1	答え 1 アヘン戦争	当時のアジアの大国であった清が、イギリスとのアヘン戦争に敗れたというニュースは、オランダ風説書などを通じて江戸幕府に大きな衝撃を与えました。幕府は、強力な軍事力を持つ西洋列強と武力で衝突することを避けるため、1825年から続けていた異国船打払令を緩め、穏健な対応へと方針を転換しました。
問2	答え 1 薩長同盟	薩摩藩と長州藩は、京都での政争などを通じて激しく対立していましたが、倒幕という共通の目的のために接近しました。土佐藩の坂本龍馬や中岡慎太郎が仲介役となり、1866年にこの同盟が結ばれました。これにより、江戸幕府を倒すための大きな勢力が形成され、時代は明治維新へと大きく動くことになりました。
問3	答え 4 アヘン	イギリスは清との貿易において、茶や絹の代金として支払う銀が不足したため、インドで栽培させたアヘンを清に密輸し、その対価として銀を回収する三角貿易を行いました。このアヘンの流入は清国内に健康被害と経済的な混乱をもたらし、のちの武力衝突の直接的な原因となりました。
問4	答え 2 天皇を尊ぶ立場から、武力を用いてでも日本から外国人を排除しようとする考え方。	尊王攘夷とは、天皇を敬う「尊王」と、外来の勢力を排除し打ち払うという意味の「攘夷」が結びついた思想です。ペリー来航以降、幕府が独断で開国を進めたことへの反発や、貿易による経済混乱への不満から、下級武士を中心に激しい運動となりました。この運動は「外国人の排除」を目的としており、外国人に協力を求める性質のものではありませんでした。
問5	答え 1 朝廷の許しを得ないまま調印し、神奈川（横浜）や長崎などの5港を開港して自由貿易を認めたが、日本側に不利な不平等条約であった。	大老の井伊直弼は、1858年に天皇の許し（勅許）を得ないまま「日米修好通商条約」を結びました。この条約では、先に結ばれた日米和親条約の2港に加え、新たに神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港が決められ、商売を目的とした自由貿易が始まりました。しかし、日本に領事裁判権（治外法権）がなく、関税自主権も欠いているという点で、日本にとって非常に不利な不平等条約であったことが特徴です。
問6	答え 1 風向きや海流の変化に左右されず、目的地へ向けた安定した航行が可能になった。	蒸気機関による動力の確保は、従来の帆船が抱えていた「風がなければ進めない」「逆風では目的地へ向かうのが困難」という制約を打ち破りました。これにより、軍事的な機動力や貿易の効率が劇的に向上しました。なお、燃料が石炭から石油へと移行するのは19世紀末から20世紀にかけてのことであり、幕末当時は石炭が主要な燃料でした。
問7	答え 2 蒸気機関を搭載したアメリカ船が、航行を継続するために必要な石炭などの物資を補給する場所を求めたため。	アメリカが日本に開国を求めた大きな理由の一つは、太平洋を横断する際の「石炭補給拠点（寄港地）」の確保でした。当時の蒸気船は積載できる燃料に限りがあり、自国から中国へ向かう長距離航海を無補給で行うことは困難でした。日米和親条約では、下田と箱館の2港を開港し、石炭や薪、水などをアメリカ船に供給することが定められました。
問8	答え 1 自国の判断で輸入品に高い税率をかけることができず、安価な外国製品の流入から国内産業を守ることが難しくなった	関税自主権がない状態とは、輸入品にかける税率（関税）を相手国との協議で決めなければならない、あるいは相手国の意向に従わなければならない状況を指します。これにより、イギリスやアメリカから安価な綿製品などが大量に流入した際、高い関税をかけて防ぐことができず、日本の伝統的な手工業が大きな打撃を受ける要因となりました。
問9	答え 4 アヘン戦争で清がイギリスに敗れたこと	強大な国力を持つと考えていた清が、アヘン戦争においてイギリスに敗れたという知らせは江戸幕府に大きな衝撃を与えました。これまでの「異国船打払令」のように外国船を武力で追い払い続けると、日本も欧米列強から攻撃を受ける危険があると判断した幕府は、人道的な支援を行って穏やかに立ち去らせる方針へと転換しました。ペリーの来航はこの出来事より後の1853年であるため、混同に注意が必要です。
問10	答え 2 倒幕派に武力討伐の口実を与えないよう、自ら政権を返上して徳川家が新政府で主導権を握り続けようとした。	武力による倒幕を準備していた薩摩藩や長州藩に対し、土佐藩などが平和的な政権交代を提言しました。徳川慶喜はこの提言を受け入れ、形式上は政権を返上することで、「倒幕の正当な理由」を無くし、徳川家が有力な大名の一人として新政府内の議会などで実権を維持しようと画策しました。なお、土地と人民を返上する「版籍奉還」や「廃藩置県」は、明治新政府が成立した後の改革です。
問11	答え 1 外国船の来航など対外的な緊張が高まる中、人材育成が急務となり、吉田松陰らが尊王攘夷の思想を広めた。	19世紀半ばは、欧米列強の接近により幕府の権威が揺らぎ、対外的な危機感から藩校での教育が重視された時期です。徳川斉昭は水戸学を背景に弘道館を設立し、同時期に吉田松陰もまた天皇を尊び外国を退ける「尊王攘夷」の思想を説いて、動乱の幕末期における精神的な支柱となりました。
問12	答え 3 アメリカ船の遭難救助や、薪水・食料などの補給を行うため	日米和親条約は、貿易を目的とした「通商条約」ではなく、あくまで鎖国を解いて船の安全や補給を確保するための「友好条約」でした。当時、北太平洋で捕鯨を行っていたアメリカにとって、日本は燃料（薪水）や食料を補給し、漂流民を救助するための拠点として非常に重要だったため、下田と函館の2港が開港地に選ばれました。本格的な貿易が始まったのは、1858年の日米修好通商条約以降のことです。
問13	答え 2 綿糸・綿織物	産業革命を経験した欧米諸国から、工場で大量生産された安価な綿糸や綿織物が輸入されるようになりました。それまで日本の農村で手作業によって行われていた綿作や綿織物業は、価格競争に勝つことができず、国内の生産地は深刻な経済的打撃を受けることとなりました。一方、生糸や茶は当時の主要な「輸出」品目です。